

カナダ春期英語研修報告書

健康福祉学部 看護学科 2年 岡田香菜

私は学部1年の春休みを利用し、カナダ春期英語研修に参加した。“留学したい”という中学生の頃に抱いた漠然とした考えは長い間変わることなく、大学入学と同時にこの考えは目標へと変わった。私は学部生の間に長期の留学に行くことを視野に入れ、今回の英語研修に申し込んだ。学部1年のうちに、または長期留学に行く前に、この短期研修に参加することには大きな意味があったと、研修を終えた今そう感じる。

実際に、カナダ春期英語研修はどのようなものであったか綴ろうと思う。まずは学習についてである。私が現地で通っていた YUELI という YORK 大学に付属する英語学校は、9 つにレベル分けされたクラスから成る。カナダに着いた翌日に行われるクラス分けテストにより、その後約 4 週間学ぶことになるクラスが決まる。そのため、私は自分と同等の英語力の留学生と一緒に学べると思っていた。しかし、現実はそうではなかった。私のクラスメイトは、私よりもはるかに英語力が高く、英語での日常会話を難なくこなしていた。授業の初日に自分とクラスメイトとの英語力の差に唖然としたことは、今でもよく覚えている。ほぼ毎回出される課題やプレゼンの準備は大変であったが、初日に感じた自分の英語力の乏しさが、その後の私の原動力となり、良い学びにつながったと思っている。

アカデミックプログラムというだけあって、授業内容は **essay** の書き方が主だったと記憶している。その他、カナダの有名人についての個人プレゼンを行ったり、ドキュメンタリを英語で視聴し、その内容についてのグループプレゼンをすることもあった。授業では英語でのコミュニケーションスキルを向上することができ、加えて、英語での学習方法を身に付けることができた。英語で書かれている文献や信頼できる **Web** サイトを見つけ、その情報を正確に読み取り、相手へ伝える。カナダでの学習を始めた当初は、どれも全く手につかないものであったが、授業へ積極的に参加していく中で少しずつ身に付けていったスキルである。

毎回の授業は決して楽なものではなかった。しかし、私は毎日の授業がとても楽しみであった。クラスメイトとの会話はとても楽しく、笑いは絶えなかったし、彼らの話を聴くことにより多種多様な意見や考えを知ることができたからである。自分の意見が相手にうまく伝えられないのは日常茶飯事であったが、間違いを恐れず、失敗を恥じることなく、伝えようと努力した。私はそのようなクラス的环境をつくってくれたクラスメイトや先生にととても感謝している。彼らが “**Your English is good.**” と、いつも言ってくれたおかげで、たくさんの人と積極的にコミュニケーションを図ることができた。

授業は午前中に行われ、午後は自由時間であった（午前中が自由時間で、午後に授業が

行われるクラスもあった)。課題が多い日には図書館で夜まで勉強し、そうでない日にはダウンタウンやショッピングモールへ行った。休日には YUELI が主催するアクティビティに参加した。カナダで人気のブランドものを買ったり、ナイアガラ滝などカナダが誇る絶景を観光に行ったり、カナダ名産メイプルシロップのフェスティバルへ行ったりと、これらのときばかりは全力で観光客を楽しんだ。

いくつもの理由から、私は日を追うごとに帰国したくないという思いを大きくしていったが、一番の理由はカナダで出会った友達と別れたくなかったからである。カナダに行く前まで、私はこれほどまでに別れを惜しめる友達ができるとは思ってもしなかった。いつ、どのような会話から仲良くなったのか鮮明には覚えていない。気が付いたら仲良くなり、気が付いたら別れのときが来ていた。彼らと共に過ごした日々の一コマ一コマは、私にとって何にも代えることのできない大切な時間である。

このカナダ春期英語研修を終えて、大学入学時には目標であった長期留学が、今ではひとつの計画へと変わった。留学での学びや経験は私に新たな考えをもたらしてくれるということを知った。「今の私には、まだ見えていない将来が多く存在するのではないだろうか。」そう強く感じるようになった。日本にいては知ることのできない、経験することのできない様々なことから、自分の可能性を大きく広げたい。今回のカナダ春期英語研修は多くのカナダの文化に触れることができたり、英語コミュニケーション力を向上することができただけでなく、今まで知ることのなかった視点から物事をみるきっかけを与えてくれた。参加してよかったと心から思う。

私がこのカナダ春期英語研修に参加するにあたり協力してくれた、大学や両親をはじめとするすべての方々に感謝したい。

